

AsahiKASEI

マテリアル領域
事業説明会

2016年9月8日
旭化成株式会社

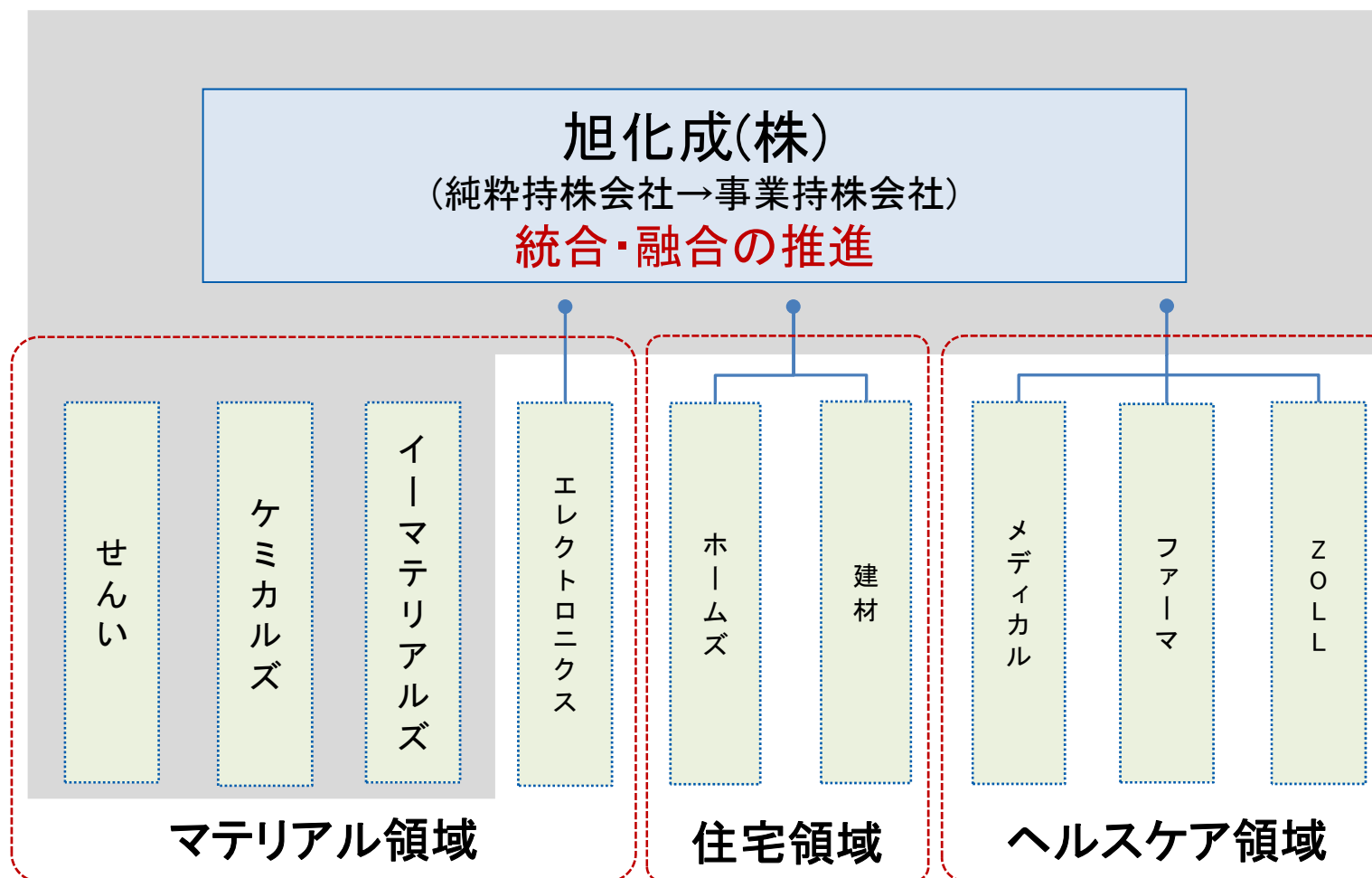


内容

1. 旭化成グループの概要
2. 旭化成の強み
3. マテリアル領域の基本方針と重点課題
4. 成長に向けての戦略投資

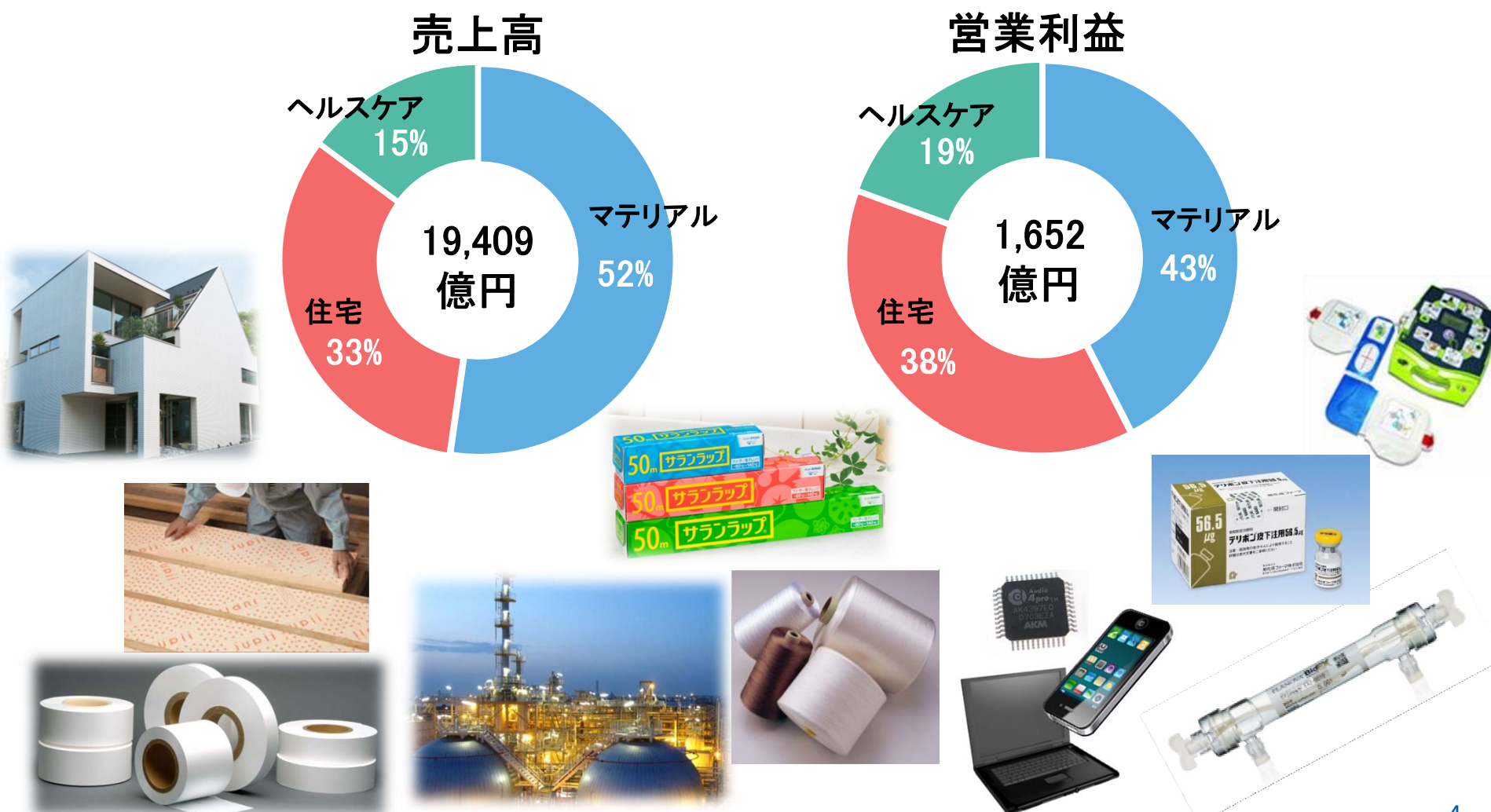
旭化成グループの体制再編(2016／4～)

2016年4月より3事業領域・事業持株会社体制へ



セグメント別売上高・営業利益(1)

旭化成グループ連結業績*1 (2015年度)



*1 売上高、営業利益の構成比は、「その他」および「消去又は全社」を除いて算出している

セグメント別売上高・営業利益*1(2)

(億円)

	2015年度実績			2016年度予想		
	売上高	営業利益	売上高 営業利益率	売上高	営業利益	売上高 営業利益率
繊維	1,321	139	10.5%	1,300	135	10.4%
ケミカル	7,507	608	8.1%	7,130	590	8.3%
エレクトロニクス	1,216	44	3.6%	1,370	(※1) -25	-1.8%
マテリアル	10,044	792	7.9%	9,800	700	7.1%
住宅	5,830	654	11.2%	5,730	610	10.6%
建材	494	58	11.8%	510	40	7.8%
住宅	6,324	710	11.2%	6,240	650	10.4%
医薬・医療	1,449	243	16.8%	1,340	(※2) 150	11.2%
クリティカルケア	1,405	119	8.5%	1,460	135	9.2%
ヘルスケア	2,854	362	12.7%	2,800	285	10.2%
その他	187	38	20.3%	260	40	15.4%
消去又は全社	—	-250	—	—	-225	—
合計	19,409	1,652	8.5%	19,100	1,450	7.6%

※1: エレクトロニクス事業の2016年度予想は、円高の影響やPolypore買収に伴うのれん償却費等の増加等により、前期比69億円の減益となる計画

※2: 医薬・医療事業の2016年度予想は、医薬事業における薬価改定の影響や排尿障害改善剤「フリバス」が後発医薬品の影響を受けること等により、93億円の減益となる計画

*1 セグメント別の営業利益は各セグメント内の事業間取引の消去を含んでいるため、事業別の営業利益を単純合算した数字とは一致しない。

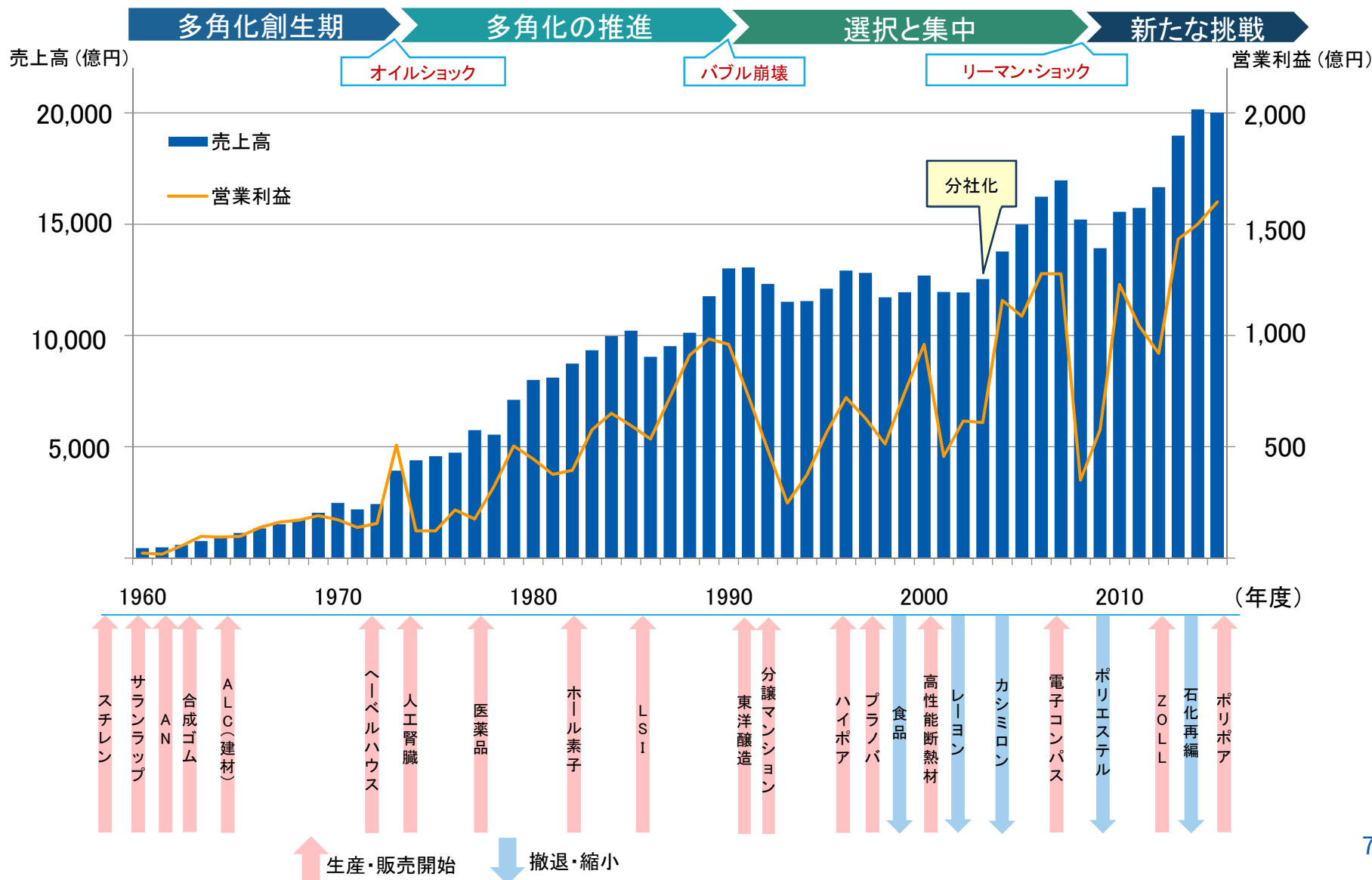


内容

1. 旭化成グループの概要
- 2. 旭化成の強み**
3. マテリアル領域の基本方針と重点課題
4. 成長に向けての戦略投資

時代に応じ変化・成長してきた歴史

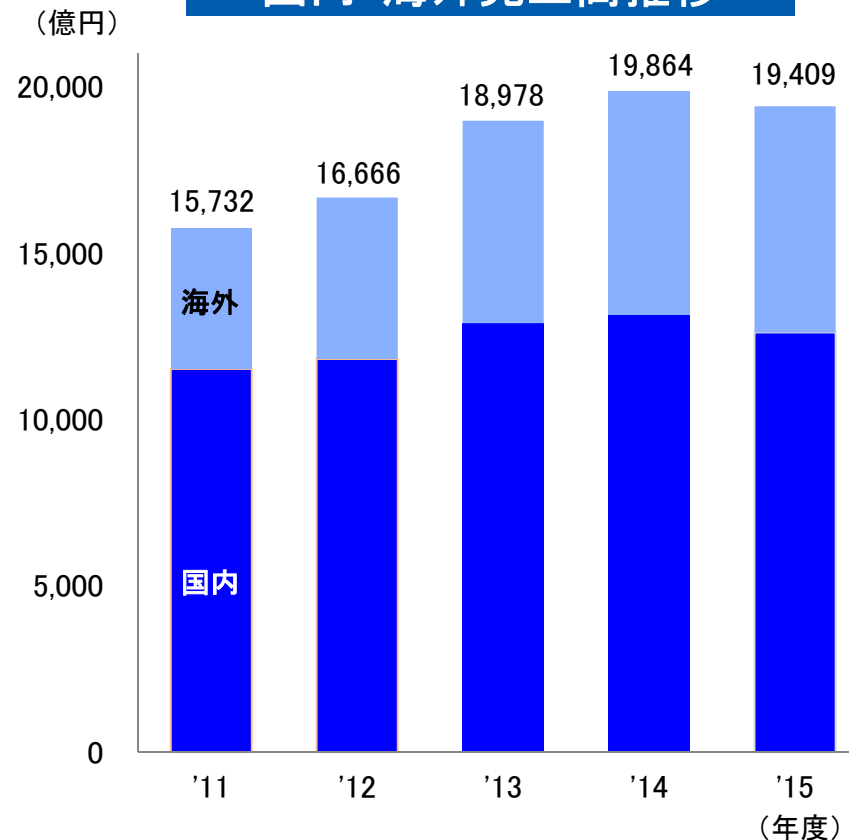
環境変化に向き合い、新たな事業に果敢に挑戦して成長を遂げてきた



多様な技術・事業・人財の融合による強み



国内・海外売上高推移



- ✓ それぞれの領域で市場ポジションの強い優れた事業を有し、選び抜かれた多角化ポートフォリオを展開
- ✓ グローバル型事業が拡大する中で、国内市場では競争力を有する住宅事業、医薬事業などが安定的に事業を展開
- ✓ 技術・事業・人財を融合し、多様性を活かした旭化成ならではの価値を創出



内容

1. 旭化成グループの概要
2. 旭化成の強み
3. **マテリアル領域の基本方針と重点課題**
4. 成長に向けての戦略投資

マテリアル領域の組織

マテリアル領域

副社長執行役員 小林 友二

繊維事業本部

専務執行役員 高梨 利雄

石油化学事業本部

常務執行役員 竹本 常夫

高機能ポリマー事業本部

上席執行役員 吉田 浩

高機能マテリアルズ事業本部

常務執行役員 濱井 研史

消費財事業本部

執行役員 山崎 龍磨

セパレータ事業本部

常務執行役員 高山 茂樹

旭化成エレクトロニクス

社長 田村 敏

旭化成アドバンス

社長 浅野 泰

マテリアル領域の主要製品群(1)

事業本部	事業部	主要製品
繊維	ベンベルグ	「ベンベルグ」
	ロイカ	「ロイカ」
	不織布	「エルタス」、「ベンリーゼ」、「ラムース」
	レオナ繊維	「レオナ」
石油化学	基礎化学品	苛性ソーダ、硝酸、SM、アジピン酸、シクロヘキサノール
	三菱化学旭化成エチレン	エチレン、プロピレン、ブタジエン
	AN	AN、青化ソーダ
	MMA	MMA、CHMA、PMMA
	ポリエチレン	HDPE、LDPE、「サンファイン」
	PSジャパン	ポリスチレン(HIPS、GPPS)
高機能ポリマー	合成ゴム	S-SBR、エラストマー
	機能樹脂	「レオナ」、「テナック」、「ザイロン」、「スタイラック」、 「サーミレン」(PP コンパウンド)
	C&M	

マテリアル領域の主要製品群(2)

事業本部	事業部	主要製品
高機能 マテリアルズ	機能性コーティング	「デュラネート」、「デュラノール」、アルミペースト
	添加剤	「セオラス」、アセトニトリル、MAN
	化薬	金属加工、火薬
	膜・水処理	「マイクロザ」
	交換膜	イオン交換膜、電解槽
	電子・機能製品	「APR」(感光性樹脂)、「AFP」(感光性樹脂)、「パイメル」、ペリクル
	基板材料	「サンフォート」(ドライフィルムレジスト)
	積層材料	ガラスクロス
消費財	旭化成ホームプロダクツ	「サランラップ」、「ジップロック」、「フロッシュ」
	樹脂製品	PS/PSフィルム、PVDCラテックス、「アサクリン」
	旭化成パックス	飲料用容器、食品包装材
セパレータ	電池材料	「ハイポア」
	ポリポア	「ダラミック」「セルガード」
エレクトロニクス		電子コンパス、カメラモジュール用電子部品、水晶発振器用LSI、オーディオ用LSI、モーター制御用ホール素子、IRセンサ、UVC-LED

基本戦略と重点課題

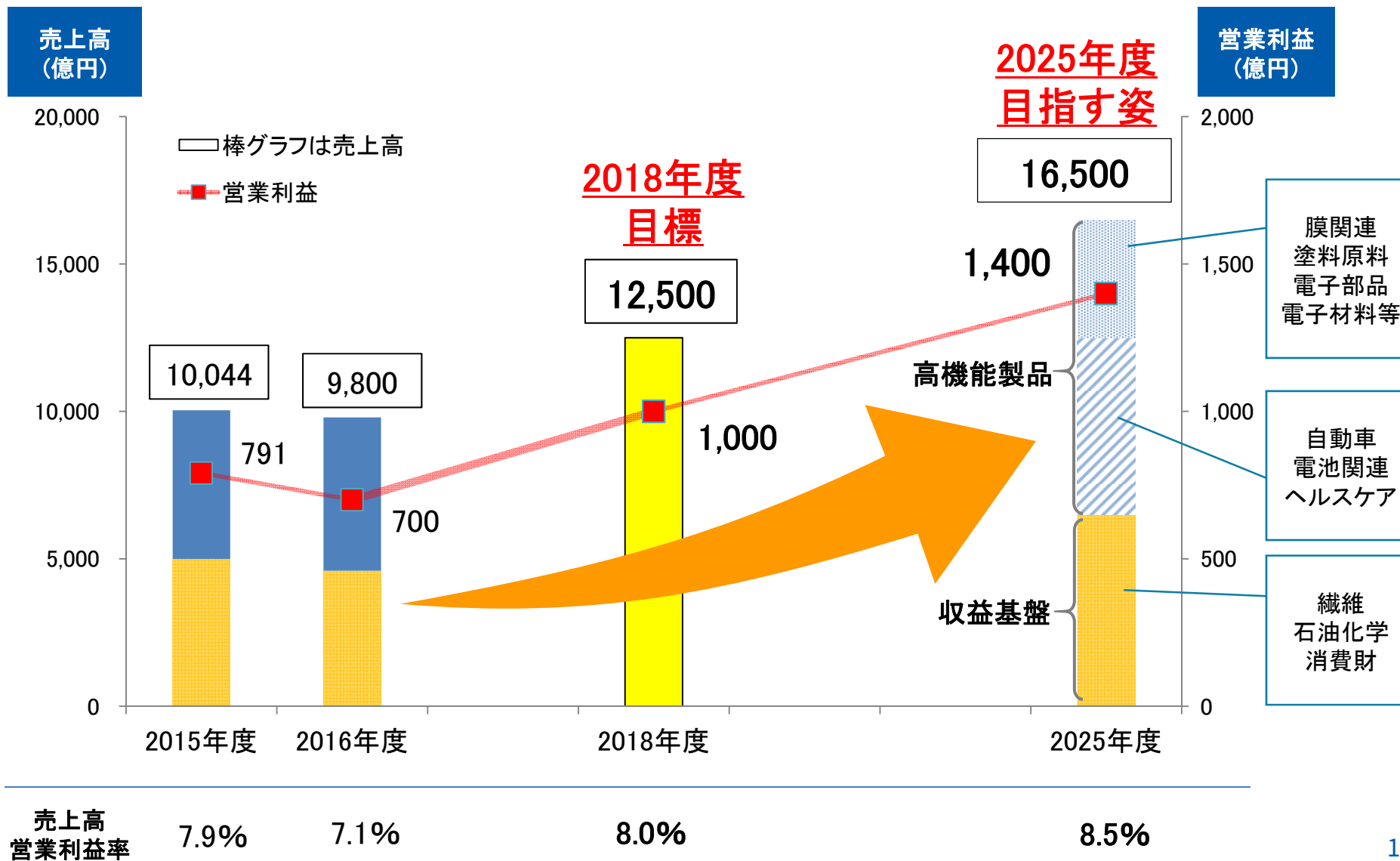
基本戦略

- ・既存事業の**収益力向上**と重点事業の積極拡大
- ・事業領域間の**シナジーを追求**した成長戦略の立案・実行
- ・2025年度のターゲットに向けた戦略投資の立案・実行

重点課題(具体化のための手段)

- ・環境／エネルギー及び**自動車関連ビジネスの拡大**
- ・ヘルスケア／生活衛生関連ビジネスの強化
- ・事業ポートフォリオの見直しと新規事業の開発
- ・**グローバルエリア戦略の推進**

2018年度目標と2025年度の目指す姿



重点課題①:自動車関連ビジネスの拡大(1)

マテリアル領域内で、広範囲に展開する製品・技術群の総合的提案により顧客価値を向上させ、2025年度には3,000億円規模の売上高を目指す

重点戦略①

- 幅広い事業／製品／技術群の融合型新規製品、ソリューションの実現
 - ✓ 樹脂材料、繊維製品の他、電池材料、電子部品に展開する、類まれな広い提案力
 - ✓ 融合型提案により、新たな価値を創出

Create, Challenge

重点戦略②

- 顧客ニーズへの対応力を強化
 - ✓ キーアカウントマーケティングにより、お客様との関係を深化させる
 - ✓ 旭化成グループとしての提案を行い、より先進的なソリューションを提供する
 - ✓ 技術・開発サポート力の一層の強化

Connect, Communication, Create

重点戦略③

- グローバルにブランド力を向上
 - ✓ 多面的なプロモーションによる旭化成ブランドのグローバルな強化

Connect, Communication

重点課題①: 自動車関連ビジネスの拡大(2)

具体的に領域内横断で総合的なアプローチを行うため、2016年4月にオートモーティブ事業推進室を設置

オートモーティブ事業推進室(新設)による推進



重点課題②: グローバルエリア戦略の推進(1)

旭化成グループの海外売上高(2015年度)

欧州
約800億円
4%

東アジア (内、中国)
約3,100億円 (約1,800億円)
16% (10%)

米国
約1,800億円
9%

東南アジア
約800億円
4%

	売上高 (億円)	比率	内、マテリアル領域 (億円)	比率
国内売上高	12,612	65.0%	5,043	50.2%
海外売上高	6,797	35.0%	5,001	49.8%
(合計)	19,409	100%	10,044	100%

重点課題②: グローバルエリア戦略の推進(2)

各エリアにおいて領域内横断で事業戦略・機能の融合を推進

欧州

旭化成ヨーロッパを設立し、欧州のグループ統括拠点として位置付けるとともに、自動車関連を中心に事業戦略の融合を図る

米国

自動車用途をメインターゲットとし、ポリポアとAPNA*の拠点を軸に事業戦略・統括機能の融合を図る

自動車・ヘルスケア分野での今後の成長を見据え、マーケティング機能を強化する

アジア (インド)

既に進出している各種の事業拠点に対するガバナンスを強化し、成長する市場に対応する

アジア (中国)

既存拠点をベースとした事業強化を図る

アジア (東南アジア・韓国・台湾)

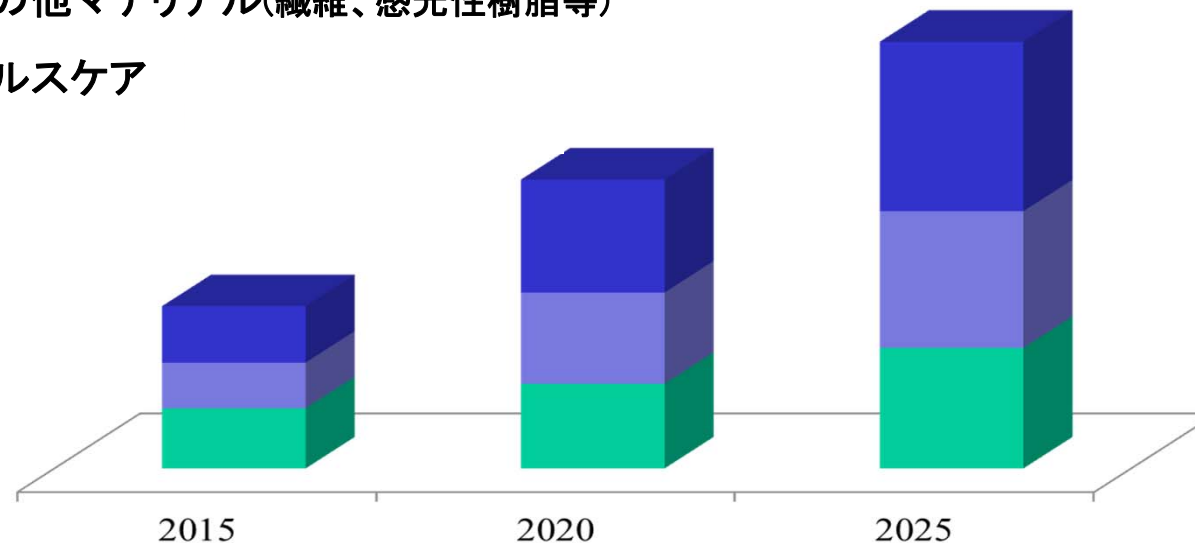
*APNA=旭化成プラスチックノースアメリカ

重点課題②: グローバルエリア戦略の推進(3)

「旭化成ヨーロッパ」が2016年4月より営業を開始

- ヨーロッパでの旭化成のプレゼンスを高め、マテリアル領域での自動車関連産業を中心とした横断的マーケティングを展開させ、ヨーロッパでの旭化成グループの売上高を現状の約7億ユーロから2025年度に3倍を目指す

- 自動車関連
- その他マテリアル(繊維、感光性樹脂等)
- ヘルスケア



重点課題③：ヘルスケア関連ビジネスの強化

旭化成のヘルスケアビジネス(医薬品／医療機器／救命救急医療)

(売上高:億円)	2015年度(実績)	→	2018年度(計画)	→	2025年度(展望)
ヘルスケア領域	2,854		3,700		6,000

マテリアル領域においてもヘルスケア素材のシナジーを追求し、ヘルスケア関連ビジネスの拡大を図る

医薬品製造用途

- 結晶セルロース「セオラス」： 医薬品錠剤の賦形剤No.1を維持し、成長するアジア市場での拡大を図る
- アセトニトリル： 医薬品製造用溶媒で国内No.1. 生産の2拠点化により安定供給を強化し更なる拡大を図る

医薬包装用部材

- PTP包装及び「サランラテックス」： ジェネリック等の医薬品の需要拡大が見込まれる新興国市場で積極展開

医療関連部材

- 水添スチレン系熱可塑性エラストマー： 輸液バック等で、中国や欧州の需要拡大に向けて生産体制を強化
- 繊維関連新素材： 診断薬発色剤セルロース微粒子「ナノアクト」／人工血管(ステントグラフト)

生活衛生関連

- スパンボンド不織布： オムツ用途に積極展開
- 殺菌用途： 「UVCLED」事業化推進、高出力殺菌用深紫外LED「Klaran」販売

各事業領域の基本戦略(除く、高機能ポリマー事業／セパレータ事業)

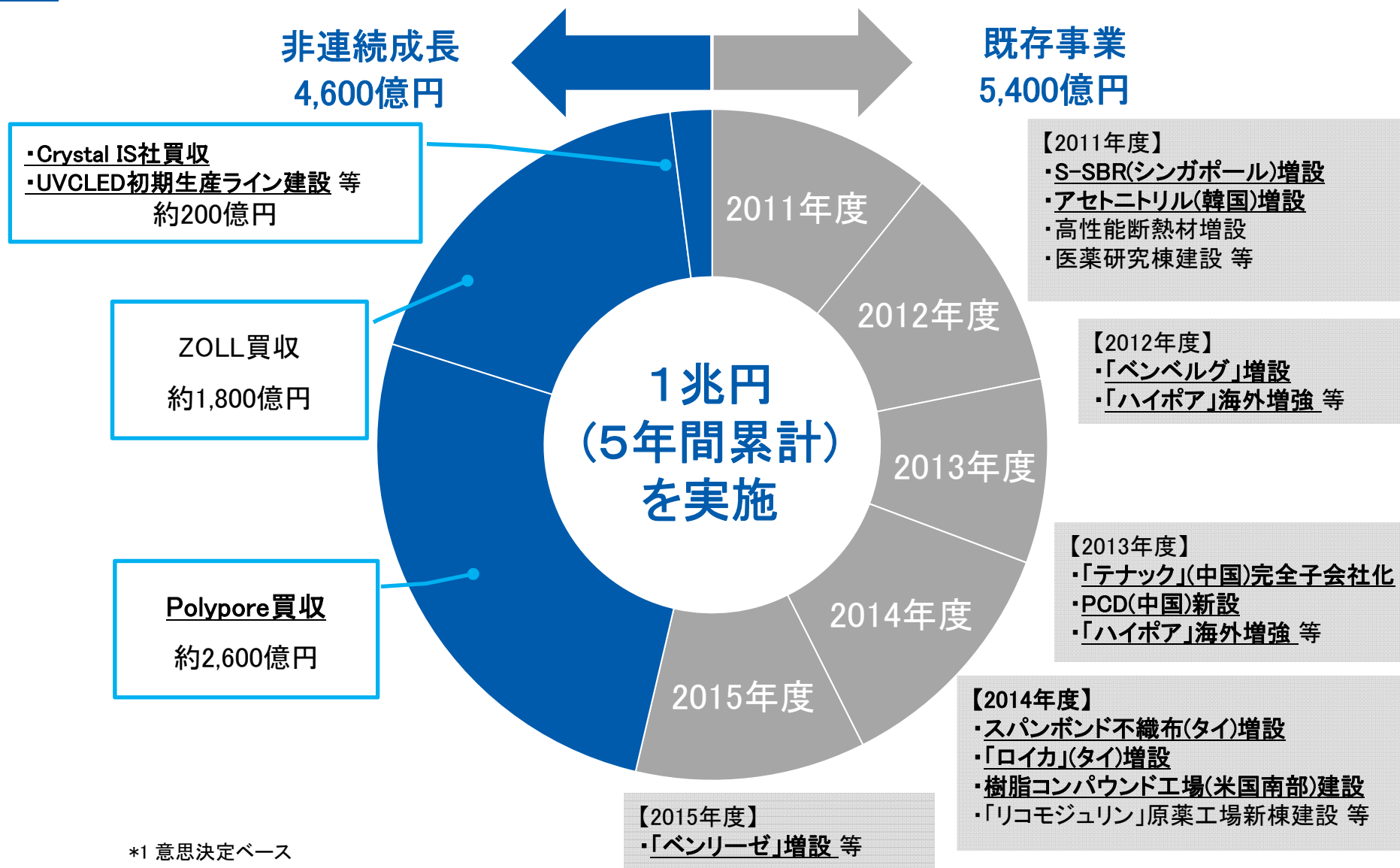
事業本部	基本戦略
繊維	主力4事業の成長路線の維持・拡大を図りながら、更なる設備拡大の検討を進める
石油化学	構造改善を完遂し最適かつ高付加価値の事業構造に転換し、収益基盤の強化を図る
高機能マテリアルズ	高機能ケミカルから電子材料にわたる広範囲な高収益製品群を持続的に成長させ、併せて新規事業の創出を目指す
消費財	BtoB／BtoC双方に展開する消費財メーカーとして、コンビニやヘルスケア等の成長分野で事業拡大を目指す
エレクトロニクス	技術の強みを活かせるSensing、Audio & Voice領域をターゲットにソリューションビジネスを展開する



内容

1. 旭化成グループの概要
2. 旭化成の強み
3. マテリアル領域の基本方針と重点課題
4. 成長に向けての戦略投資

“For Tomorrow 2015”の振り返り



*1 意思決定ベース

マテリアル領域成長に向けての投資案件

領域	製品	立地	投資	開始時期
共通		ドイツ	旭化成ヨーロッパ設立	2016年
		日本	新研究棟の建設を含む研究開発施設の集約・整備拡充	2017/18年
高機能ポリマー	S-SBR	シンガポール	第二系列増設(5万トン/年)	2015年
	エラストマー	日本	水添スチレン系熱可塑性エラストマー能力増強	2015/16年
	エンジニアリング樹脂	メキシコ	旭化成プラスチックメキシコ設立	2015年
		米国	樹脂コンパウンド第二工場稼働	2016年
		ベトナム	旭化成プラスチックベトナム設立	2016年
高機能マテリアル	「デュラネート」 (HDI系ポリイソシアネート)	中国	南通工場能力増強(1万トン/年)	2015年
	「デュラノール」 (ポリカーボネートジオール)	中国	南通工場稼働(3千トン/年)	2014年
	添加剤	米国	SPI Pharma, Inc.社との医薬品添加剤事業提携	2016年
	アセトニトリル	韓国	新プラント稼働(11千トン/年)	2014年
石油化学	石化製品	日本	エチレンセンター集約	2016年
		日本	DRC法DPCプロセス実証プラント	2017年
		日本	超高分子量ポリエチレンの能力増強	2017/18年
繊維	「ベンベルグ」(キュプラ繊維)	日本	生産設備増設	2014年
	「ベンリーゼ」(キュプラ不織布)	日本	生産設備増設(1.5千トン/年)	2017年
	スパンボンド不織布	タイ	生産設備増設(20千トン/年)	2016年
	「ロイカ」(ポリウレタン繊維)	タイ	生産設備増設	2016年
	「レオナ」(ナイロン66繊維)	日本	生産設備増設	2016年
	「ラムース」(人工皮革)	日本	休止設備再稼働	2014年
セパレータ	「Celgard」、「Daramic」	米国ほか	Polypore International, Inc.買収	2015年
	「ハイポア」(LIB用セパレータ)	日本	日向工場増設(約6,000万m ² /年)	2016年
		日本	守山工場増設(約6,000万m ² /年)	2018年

今後の投資戦略

■ グループ総投資額(3年間累計): 約7,000億円

- 既存事業の拡大・維持投資に加え、M&A等による新たな事業投資も積極的に進める。

■ マテリアル領域としての投資戦略

- バッテリーセパレータ、S-SBR、樹脂コンパウンド、繊維を中心に積極的に拡大投資を実施する。
- 高機能マテリアルズや消費財領域ではM&Aによる拡大も検討する。

Creating for Tomorrow

昨日まで世界になかったものを。

私たち旭化成グループの使命。

それは、いつの時代でも世界の人びとが“いのち”を育み、

より豊かな“暮らし”を実現できるよう、最善を尽くすこと。

創業以来変わらぬ人類貢献への想いを胸に、

次の時代へ大胆に応えていくために。

私たちは、“昨日まで世界になかったものを”創造し続けます。

参考資料

世界をリードする製品・事業群(1)

自動車素材



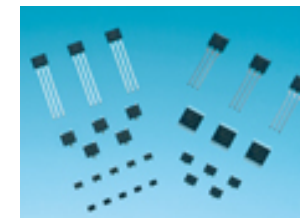
低燃費型タイヤ向け
合成ゴムS-SBR



塗料原料
「デュラネート」

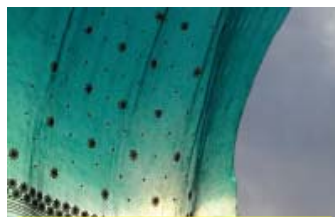


世界 No.1
LIB用セパレータ
「ハイポア」



世界 No.1
磁気センサ

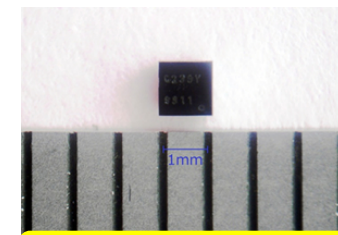
マテリアル



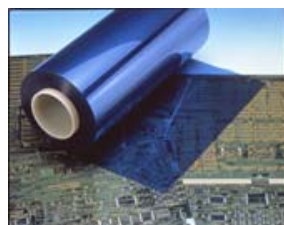
世界No.1
再生セルロース繊維
「ベンベルグ」



世界No.1
イオン交換膜



世界No.1
電子コンパス



感光性ドライフィルム
「サンフォート」



UVLED



衛生材料向け
スパンボンド不織布



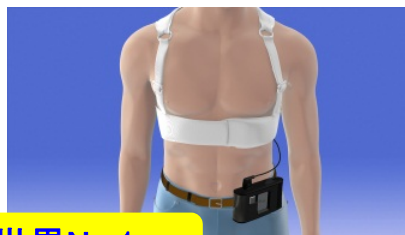
ポリウレタン繊維
「ロイカ」



アクリロニトリル

世界をリードする製品・事業群(2)

ヘルスケア



世界No.1

着用型自動除細動器
「LifeVest」



世界No.1

医療機関向け
除細動器



世界No.1

ウイルス除去フィルター
「プラノバ」



世界No.1

白血球除去フィルター
「セパセル」



「ヘーベルハウス」



「サランラップ」・「ジップロック」

国内大型事業

繊維事業①

キュプラ繊維「ベンベルグ」

- 世界唯一のメーカー
- 裏地、機能性インナー、民族衣装など幅広い用途でグローバルに展開
- 延岡工場増設(2014年6月稼働開始、年産能力10%増加)

ポリウレタン繊維「ロイカ」

- 高機能・高品質ブランドをグローバルに展開
(生産拠点:日本、台湾、中国、タイ、ドイツ)
- 世界初の再生スパンデックスを発売(2015年7月)、
スパンデックス繊維として世界で唯一GRS*1を取得

ナイロン66繊維「レオナ」

- 強度・耐熱性に優れ、タイヤコード用途に加え、
エアバッグ用途を拡大



*1 Global Recycle Standard(リサイクル製品に関する認証プログラム)

繊維事業②

不織布

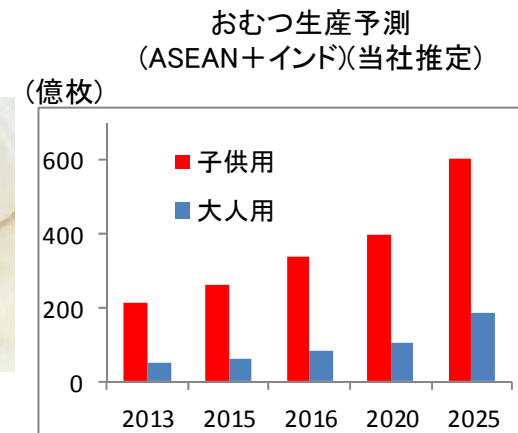
－ 独自に培った製造技術により、機能的で多彩な製品を提供

<スパンボンド不織布>

- ・衛生材料用途が拡大、タイの生産設備増設
(2016年1月稼働開始、年産4万トンへ)



スパンボンド不織布
「エルタス」



<キュプラ不織布「ベンリーゼ」>

- ・フェイスマスク用途が拡大、生産設備の増設決定(2017年3月稼働開始予定)



キュプラ不織布「ベンリーゼ」



<人工皮革「ラムース」>

- ・カーシート用途が好調、休止設備再稼働で生産能力倍増(2014年10月再稼働開始)

人工皮革「ラムース」



石油化学事業①: 石油化学の主な製品

2016年4月現在

	当社生産能力 (kt/年)	主な同業他社	当社の主要用途	当社のポジション
AN	960	Ineos	アクリル繊維、ABS、自消 (ABS、アジポニトリル)	世界No.2メーカー (14年8月に川崎15万トンを停止、水島10万トン を他製品の生産に特化)
SM	390	Shell Ineos Lyondell Basell	発泡PS、ABS、SBラテックス、不飽 和ポリエステル、SBR、自消 (PS、 ABS、SBラテックス、SBR)	16年2月に32万トン系列を停止。基盤強 化後の39万トンは、国内市場及び自社消 費中心の販売に移行
MMA モノマー	170	三菱レイヨン	MS、MBS、塗料、 自消 (PMMA)	自社技術でコスト競争力ある直メタプロセス を採用
シクロヘキサ ノール	180	山東海力 BASF	アジピン酸、カプロラクタム、自消 (アジピン酸)	自消がメイン
ポリエチレン	283	(国内) 日本ポリエチレン プライムポリマー	各種フィルム、日用雑貨、食品容 器、射出成形	独自の触媒技術によるユニークな特性を 生かした事業展開
ポリスチレン	315	(国内) 東洋スチレン DIC	食品容器、食品包材、玩具、雑貨、 建材	国内最大手

石油化学事業②: 石油化学事業の基盤強化

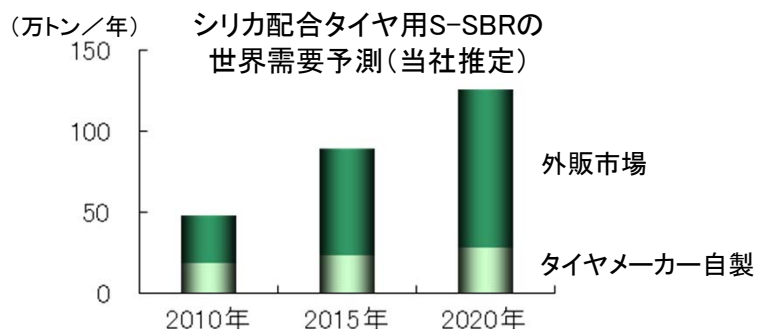
国内における石油化学製品の需要縮小や、安価な原料を基に製造される海外製品との価格競争に対応するため、以下の事業について最適生産体制を構築し、国内の収益基盤安定化と競争力強化を図った。

事業	立地	生産能力(kt/年)	主用途	停止時期
エチレンセンター	水島	500 (三菱化学とJVで存続)	エチレン、プロピレン等 石油化学の基礎原料を生産	2016年2月
アクリロニトリル(AN)	水島 川崎 韓国 タイ	200 100*1 150 560 200	アクリル繊維、ABS樹脂、 アクリルアミド、アジポ ニトリル *1 MAN転用ライン	2014年8月
スチレンモノマー (SM)	水島	320 390	PS樹脂、ABS樹脂、 合成ゴム	2016年2月
ABS樹脂	水島	65*2	自動車、家電、OA *2 コンパウンド事業として存続	2015年12月
SBラテックス	水島 川崎	24 36	紙塗工、接着剤、塗料	2015年12月
エポキシ樹脂	水島 富士	37 (非公表)	塗料、接着剤、電気・電子	2015年5月

 生産停止 他製品生産に特化

高機能ポリマー事業①: 合成ゴム S-SBR

- ✓エコタイヤ(シリカ配合タイヤ)用S-SBR(溶液重合SBR)でアジアNo.1
- ✓相反する省燃費性能とグリップ性能(安全性)を両立させ、タイヤのトータル性能向上に寄与するS-SBR
- ✓連続重合、バッチ重合両方の製造プロセスを保有。特に連続重合法は、競合メーカーが少なく、他社に先駆けて積極的に拡大

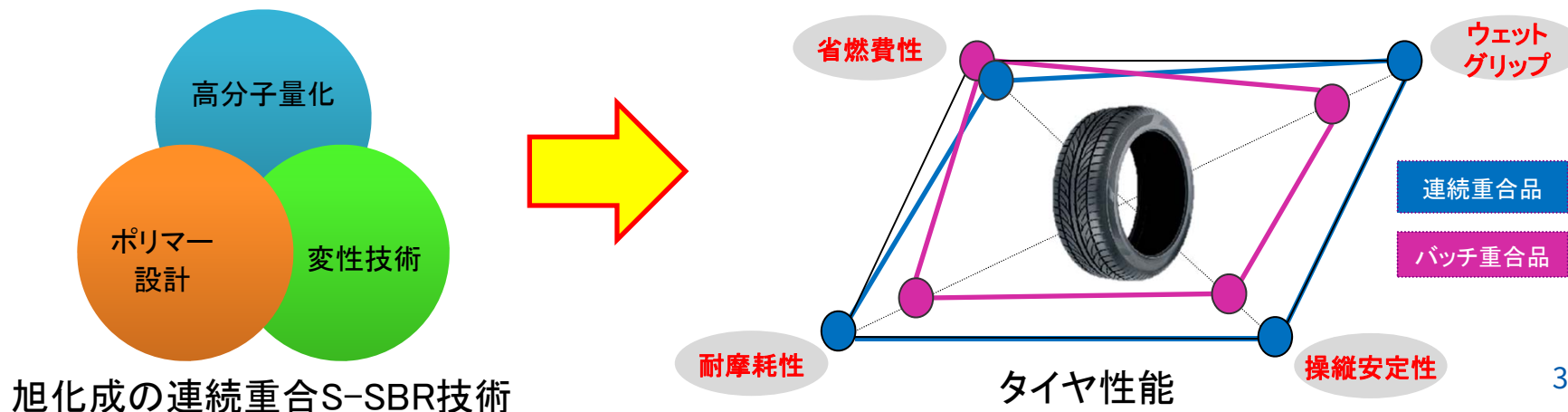


タイヤに対する環境規制の強化により、エコタイヤ用S-SBRの需要は大幅に拡大



シンガポールで2013年に5万トン/年新設、2015年に5万トン/年増設

・ポリマー設計技術や高分子量化、変性技術を駆使して、タイヤの4大機能向上を実現



高機能ポリマー事業②: エンジニアリング樹脂

＜グローバルな成長戦略の実施／自動車関連事業強化＞

- ✓ CAE(Computer-Aided Engineering)技術を駆使し、自動車部品軽量化等に対応する製品提案
- ✓ ポリマー技術、アロイ技術、コンパウンド技術の強みを活かした素材開発
- ✓ グローバルな生産(コンパウンド)・販売・テクニカルサービス体制

製品	製品別戦略	主な用途
「レオナ」 (ポリアミド66樹脂)	耐熱性、耐久性、剛性、良外観等に競争優位性を持つ特殊ポリアミドをグローバルに展開	自動車エンジンルーム内部品(シリンダーヘッドカバー等)
「テナック」 (ポリアセタール樹脂)	水島・張家港(中国)両拠点で低VOC品を生産しグローバルに拡販	自動車内装部品、燃料系部品、モーター部品等
「ザイロン」 (変性PPE樹脂)	OA機器、太陽光発電(PV)、自動車、二次電池用途を中心に競争優位グレードをグローバルに展開	電装部品(リレーブロック、電気自動車向けバッテリー部品等)
PPコンパウンド	米国南部工場立上げ・メキシコ販売会社設立による更なる拡販	自動車冷却ファン、ファンシュラウド等

高機能マテリアルズ事業

＜高機能マテリアルズの主な製品＞

製品	主な用途	業界ポジション
「マイクロザ」	水処理用ろ過膜	世界トップグループ 米国浄水向けNo.1
イオン交換膜、 イオン交換膜法電解プラント	食塩水を電気分解し、苛性ソーダと塩素を 生産するプロセス	交換膜：世界No.1 電解槽：世界No.2
「デュラネート」 (HDI系ポリイソシアネート)	無黄変型ウレタン樹脂の硬化剤 (塗料、インキ、接着剤等)	世界No.2 国内No.1
アセトニトリル	医薬品製造用溶媒	世界No.2
「セオラス」(結晶セルロース)	医薬品・食品添加剤	国内No.1
「サンフォート」 (感光性ドライフィルム)	電子機器のプリント配線板、パッケージ基 板等のアルミ配線形成	世界トップ3 シェア30%
「APR」「AFP」(感光性樹脂)	段ボール、ラベル、フィルム等のパッケージ 印刷用版材	国内No.1

消費財事業

事業	主な製品
樹脂製品	PO/PS系フィルム、「アサクリン」
旭化成ホームプロダクツ	「サランラップ」、「ジップロック」、「フロッシュ」
旭化成パックス	飲料用容器、食品包装材

【家庭用消費財】

「サランラップ」、「ジップロック」、「クックパー」

- ✓ 「サランラップ」は国内シェアNo.1
- ✓ 使い勝手・機能を改良した商品をマーケットに投入することによりシェア拡大

「フロッシュ」

- ✓ 「サランラップ」などのブランド力を活かし、洗剤や消臭剤などの新たなキッチン関連商品を展開することで事業を拡大



「サランラップ」



「ジップロック」

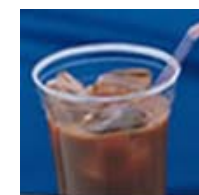


「フロッシュ」

【業務用消費財】

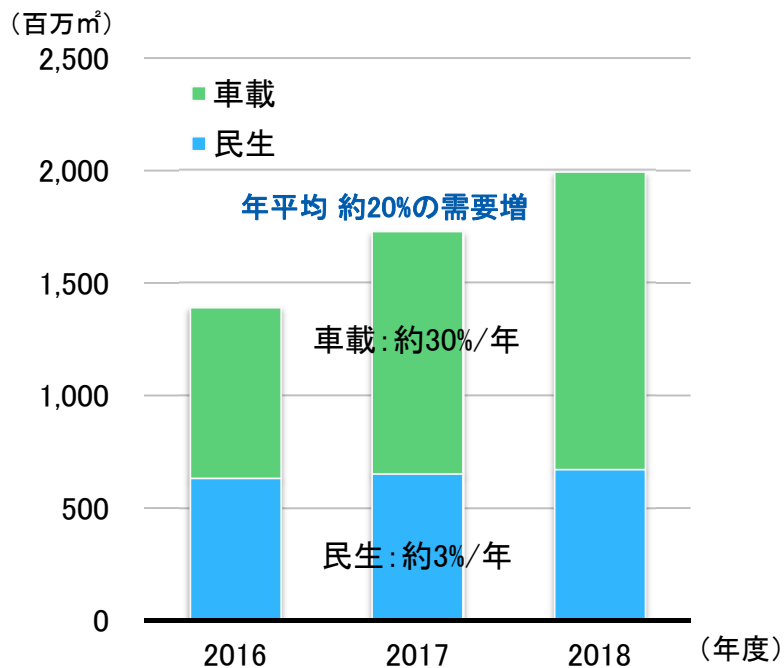
コンビニ・ファーストフード向け容器

- ✓ コンビニ・ファーストフード向け容器市場が急成長
- ✓ PP製容器のトップメーカーとしての地位を活かし、シェア拡大
- ✓ 将来的には他素材も含めて容器需要を取り込む

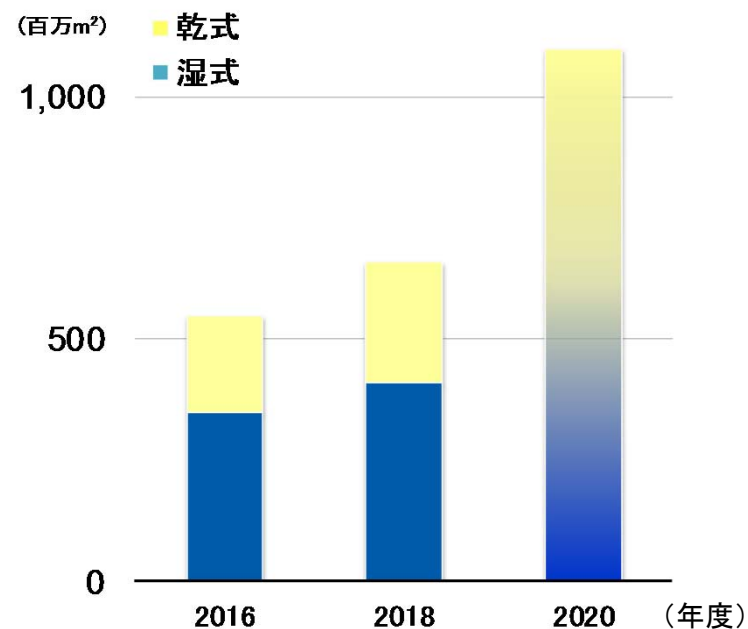


セパレータ事業

LIB用セパレータ市場の伸び(当社推定)



当社LIB用セパレータ供給能力(16/5計画)



主な用途

IT機器

携帯用通信機器(携帯電話、スマートフォン、タブレット等)、
ノートブックパソコン、ウェアラブルデバイス、デジタルカメラ等

家電

電動工具、コードレス家電等

環境対応車

ハイブリッド車、電気自動車

電力貯蔵システム

電力系統、予備電力

「ハイポア」



「セルガード」



エレクトロニクス事業

製品	主な用途	業界ポジション	主な同業他社
電子コンパス	スマートフォン、タブレット等	世界No.1	ヤマハ、アルプス電気
カメラモジュール用電子部品	スマートフォン搭載用カメラモジュール	世界トップレベル (磁気センサ)	ローム、ルネサスエレクトロニクス
水晶発振器用LSI	スマートフォン、通信機器	世界No.1	パナソニック
ハイエンドオーディオ用LSI	スマートフォン、ハイエンドオーディオ機器	世界トップレベル	ESS Technology、Cirrus Logic
車載オーディオ用LSI	車載オーディオ、カーナビ、車載ハンズフリー機器等	国内トップレベル	NXP Semiconductors、Texas Instruments
モーター制御用ホール素子	エアコン、各種白物家電、PCファン、各種産業機器等	世界No.1	-

➤ IoT時代を支える 多彩なセンシングソリューション

- ホール素子／各種モーター制御
- 電子コンパス／スマートフォン、タブレット
- 精密位置検出センサ／デジタルカメラ、スマートフォン
- 電流センサ／産業機器(インバータ、サーボ、ロボット)
- ガスセンサ／居室内空気質モニタ等
- 人感センサ／スマートハウス、情報端末
- 回転角センサ／産業機械、車載モータ制御

